

CAP 療法時における頭部冷却法

東京女子医科大学病院 中央病棟 6階

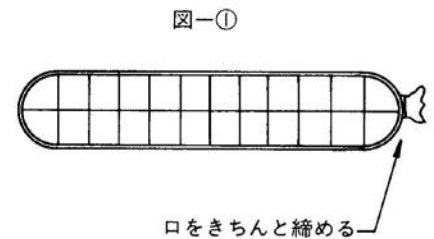
準備品 (2組分)

- (1) 氷けい (長) 6個
- (2) 氷枕 (口金2個) 2個
- (3) 三角布 (2枚縫い合わせた物) 2枚
- (4) ビニール袋 (32cm×36cm) 6枚
又はサランラップ
- (5) ガーゼ 12枚

手順

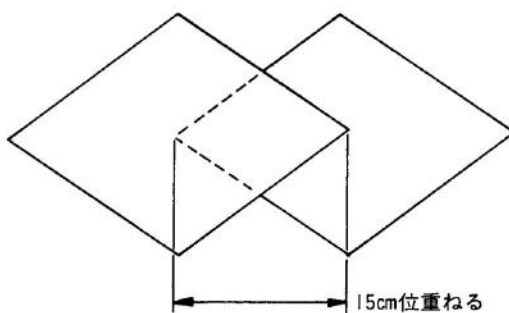
- (1) 氷けいに角氷を2列に24個入れる。(水は入れない)
水が漏れないように氷けいの口をきちんと紐で締める。
軽く両手で揉むようにして氷の角を取る。
これを3個作る。図一①

注) 氷を細かく砕いて入れると、よりフィットし、
患者の異和感も少なくなります。

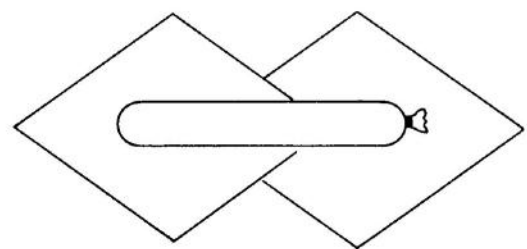


- (2) ガーゼを2枚用意し、バイヤス状に中央を15cm位重ねて広げる。 図一②
- (3) 広げたガーゼの上に作った氷けいを置き、ゆるみがないように包む。 図一③

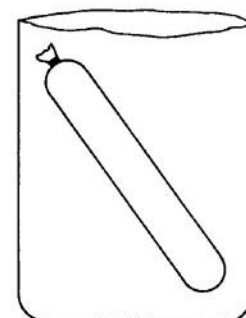
図一② ガーゼの置き方



図一③ 氷けいの置き方

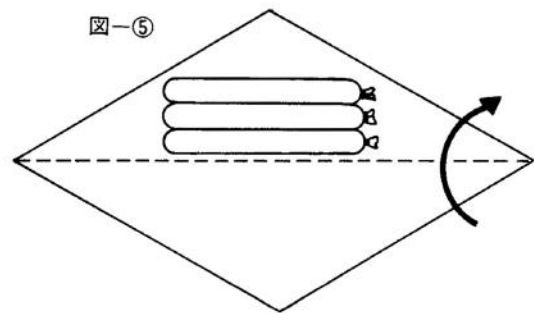


- (4) ガーゼに包んだ氷けいを、ビニール袋に入れる。
図一④のように斜めに氷けいを入れるとよい。
(サランラップでもよいが、水滴が外に出ないように
しっかり包む)
同様にして3個作る。



図一④

- (5) 縫い合わせた三角布を図-⑤のように広げる。
 (縫い合わせ面を上にする)
 三角布は両端を引っ張るとバイヤス状になる。
 3本の氷けいを図のように並べる。



- (6) 三角布を中央より向こう側に折り、3本の氷けいが重ならないように押さえながら
 図-⑥の様に包み込む。



- (7) こうして出来上がった物で患者の頭部を覆い、更に後頭部を氷枕で冷やす(写真を参照)。
 ①前頭部、側頭部、頭頂部はこの氷けいで覆われるようにし、三角布の両端は頂部で
 交差して前で結ぶ。
 この時、浅側頭動脈が完全に氷けいで覆われ、さらに頭皮に密着するように固定する。
 ②後頭部は氷枕で冷やす、氷枕ははずれないように口金2個で止める。
 ③頭頂部等に空き間が出来る場合は氷嚢で補足する。



実施上の留意点

- (1)冷却期間：頭部冷却は点滴の3時間前から開始し、終了は薬液注入後3時間とする。
 (2)頭皮温度：冷却中の頭皮温度は常時16℃位に保つようにする。
 (3)締め直し：氷が解けると三角布が緩んでくるので、1時間毎に締め直す。
 (4)交 換：氷が解ける前に次の氷けい、氷枕を準備しておく。
 交換はそれらを病室に持参して、その場で行なう(標準で2～3時間毎)。
 (5)観 察：氷の解ける時間は季節、体温等で異なるので頻回な観察を必要とする。